六甲山に分布するルリハムシの亜種

(Linaeidea aenea insularis Chûjô)について

藤　田　悦　久

本種は鞘翅目 Coleoptera, 多食亜目 Polyphaga, ハムシ科 Chrysomelidae, ハムシ亜科 Chrysomelinae, Linaeidea 属に属するルリハムシ Linaeidea aenea (Linné)の亜種である。ルリハムシの亜科にはこのほかに、本邦では Linaeidae aenea aenea (Linné) と Linaeidea aenea tsutsuii Nakaneが知られている。

Linaeidea aenea insularis (Chûjô) は中条 (1940) が高知県において、採集した11頭の標本に基づきムネアカルリハムシ Chrysomela adami (Baly) の亜種として記載され、後、中根 (1955) により、これは Chrysomela adami (Baly)の亜種でなく Linaeidea aenea (Linné) の亜種にすべきものとして本種のように改められている。今日までに分布が確認されている地方は四国、九州、屋久島で本州からの記録はない。同亜種の Linaeidea aenea tsutsuii Nakane は紀伊半島、大台ケ原、富士山麓から、Linaeidea aenea aenea (Linné) は北海道、本州、佐渡、九州から、共に本州からの記録がある。またこの属の L. aenea aenea については僅か本邦で観察された生態記録があるが、L. aenea insularis と L. aenea tsutsuii の2亜種は食草が判明しているのみで、詳しい各期の形態、および生態に関する報告はないようである。

1960年6月20日、六甲山紅葉谷でヒメヤシヤブシを食する本種の幼虫、成虫および卵を多数採集し、実験室において、本種を観察かつ飼育し、その後、1960年7月10日、1961年5月8日、10月8日の野外観察により、2、3の知見を得たので、その概要を報告する。

本文に入るに先立ち、種の同定を賜った東洋大学生物学教室大野正男先生、飼育に協力して戴いた本学院高校生早川安津子、大関美仁子両嬢に感謝の意を表する次第である。

I 各態の記載

A. 成虫（図1）

体長6～8㎜、前背板および翅鞘は光沢のある金緑色で点刻が密にある。前背板は横長の矩形で前縁は深く湾入する。翅鞘も湾入し、翅端は幾分丸みをおびる。触角は11節で、基部第1～第6節は赤褐色、第7節から先端まで黒色、前胸は赤褐色、爪は褐色、脚は赤褐色、脚の脛節末端、跗節は多毛である。

L. aenea tsutsuii は脚のみ赤褐色である。

B. 卵（図2）

色は淡い乳色を呈し、光沢があり、長楕円形で、産卵直後の卵長は約1.5㎜、卵巾は卵長のほぼ1/3。

C. 幼虫

(1)若齢幼虫

体長1.5㎜内外、巾0.8㎜、頭部は黒色、脚および体の班紋は黒褐色、他は淡黄色、末端部は透明で粘り気を有す。二齢幼虫は体長2.8㎜内外、巾1㎜内外、体色は一齢幼虫よりやや濃くなる。三齢幼虫は体長4㎜内外、巾1.2㎜内外、体節、班紋の位置が明瞭になる。四齢幼虫は体長6.5㎜内外、巾1.8㎜内外。

(2)老熟幼虫（図3）

体長10㎜内外、頭巾1～1.2㎜、頭部は黒色、触角は3節で黒褐色、胸、腹部は汚黄色で各節の班紋は暗褐色、側面の班紋は黒褐色。頭部は紡錘形で、頭頂溝は前後湾入する。中央部に3対の剛毛、触角後方は突出し2剛毛を有する。

胸部の前胸背面は1対、中胸、後胸背面には5対の班紋を有し、班紋上は無色、後胸側面突起のみ2剛毛を有す。胸脚は各2節で剛毛を有する。爪は三角状を呈し、先端はとがる。

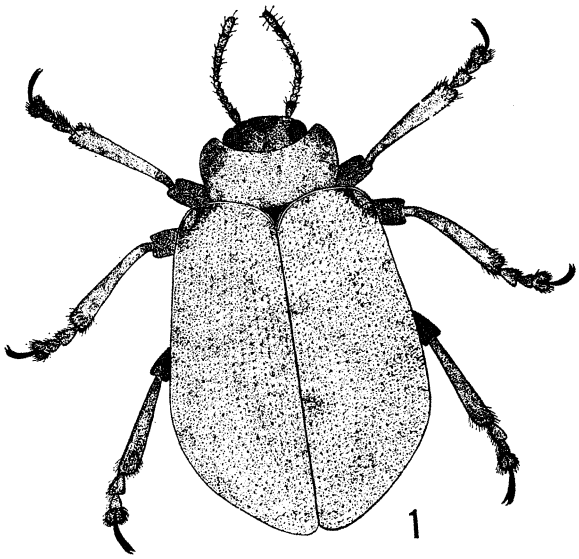
腹部は8環節よりなる。腹節背面は第1～第6節で1対の大きな丸みをおびる1対の班紋を有し、班紋上には3剛毛を有するが、第6節班紋上は8～9剛毛を有する。第7節は融合して横長の1紋となり、紋上に1対の剛毛を有する。尾節は前後の2紋を生じ、前方上1対、後方紋に3対の剛毛を有する。

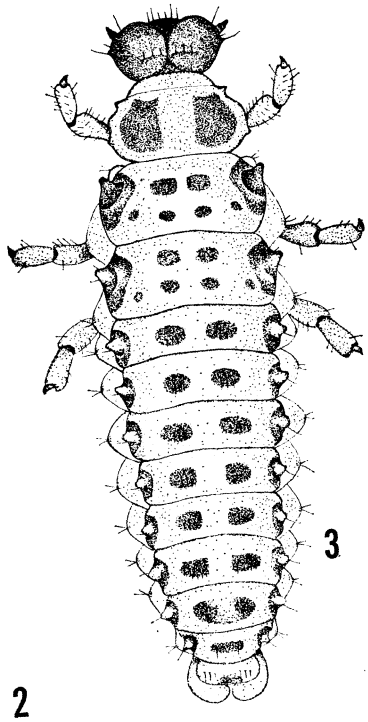
D. 蛹（図5）

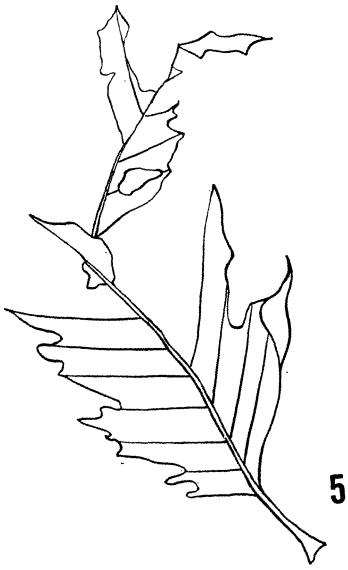
体長5㎜内外（アルコール漬標本）、体は淡褐色、触角は11節で先端ほど太い。頭部後方は3～4微毛を有する。腹部は5節で各節には1～2の微毛を有する。

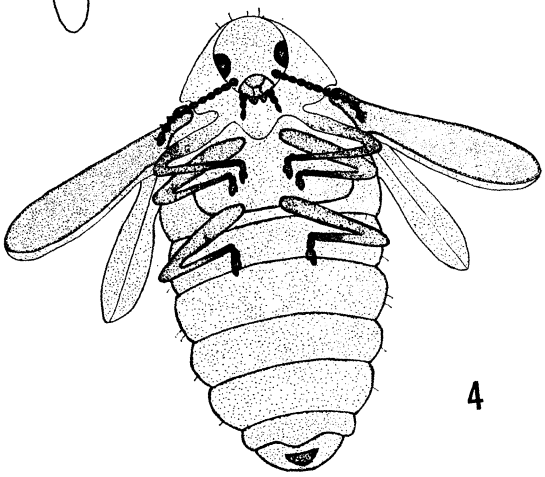
II 生　態

1961年5月8日、成虫4頭採集。1960年6月20日、卵、幼虫、成虫多数採集。1960年7月10日、幼虫6頭、成虫9頭採集、1961年10月8日、成虫2頭採集。これらの記録と飼育結果を参考にすると、六甲山に於て、成虫は5月初旬、7月上旬～7月中旬の2回出現すると思われる。同亜種の L. aenea aenea は矢野 (1911) によれ









1. 成虫　　2. 卵　　3. 老熟幼虫

4. 蛹　　5. 食害された葉

ば、"1回、または2回も夏でるかもしれない"とある。松村 (1932)によれば、"2回の成虫は8月下旬～9月上旬現われる"とある。

産卵は第1回発生のものは5月中旬頃から行われ、室内の観察では日中時を選ばず行なう。産付は食草の裏面の葉脈に平行かつじゅず状に、1箇所に20個前後産付する場合が多いようである。卵期間は1960年6月21日産付の23個の室内観察では、第1表の如く約1週間である。

第1表　卵期間

卵期間(日)	5	6	7	8	計	平均
卵　数(個)	1	12	8	2	23	6.5

幼虫の脱皮は第2表の如く、4個の脱皮を行い、幼虫期間は約2週間である。

第2表　齢期間

令	最小	最大	平均	観察個体
1	3	5	4.2	10
2	2	3	2.4	7
3	1	2	1.6	5
4	3	4	3.6	5

Lipp (1935) 等によるとヨーロッパ産の L. aeneaは2回の脱皮を行い老熟すると言う。若齢幼虫はヒメヤシャブシ Alnus pendula Matsum. の葉肉のみ食するが、老熟幼虫はほとんど葉肉、表皮共に食する（図5）。摂食、移動の際には常に顕著な集団をつくる。蛹化は食草で行う。

羽化は背部を下に、第1、2脚に皮を巻きとり約3～4分で終る。

羽化後の成虫は食草枯死のため5日間生存して餓死したため、第2回出現のものについての観察はできなかった。

参考文献

1. 中条道夫：昆虫、XIV（2）(1940)。
2. ――――；図説食葉はむし類(1956)。
3. 石井悌也；日本昆虫図鑑、北隆館(1957)。
4. 岩月　学；ルリハムシ Chrysomela (Linaeielea) aenea Linne の蛹化習性について、新昆虫(1953)。
5. 江崎悌三他；日本幼虫図鑑、北隆館(1957)。
6. 加辺　正明；ルリハムシの蛹化に関する一考察、新昆虫(1952)。
7. 木元　新作；日本産ハムシ亜科の若齢期に関する研究、九州大学農学部学芸雑誌(1957)。
8. Lipp H.；"Die Lebensweise von Melasoma aenea (L.) in der Mark". Deutsch. Ent. Zeit., (1935)。
9. Matsumura S；"Conspectus of japanese Injurious Insects (Chrysomelidae)." (1932)。
10. 村越三千男；原色植物大図鑑(3)。誠文堂新光社(1958)。
11. 中根猛彦；西京大学紀要Ⅱ(1)。(1955)。